

一 改革開放は中華民族の偉大

な復興を実現するための

肝心な一手である

改革開放は、党が新たな歴史的条件下で人民を指導して進めている新たな偉大な革命であり、現代中国の運命を決める肝心な選択である。中国の特色ある社会主義が生命力に満ち溢れているのは、改革開放を実行している社会主義だからである。これまでの三十年以上にわたる急速な発展を改革開放に依拠して成し遂げてきたわが国は、これからの発展も揺るぐことなく改革開放に依拠していかなければならない。改革開放なくして、中国を發展させ、社会主義を發展させ、マルクス主義を發展させることはできない。改革開放の中で生まれた中国の特色ある社会主義は、これからも必ずや改革開放の中で大きく發展していくであろう。

「第十八回党大会の精神を全面的に貫徹・実施するために

特にしっかりと取り組むべき六方面の仕事」

(二〇二二年十一月十五日)

『求是』誌二〇一三年第一号に掲載

改革開放は中国の特色ある社会主義を堅持し發展させる上でどうしても通らなければならぬ道である。それゆえ、あくまで改革・革新の精神を国政運営の節々に貫徹させ、絶えず

わが国の社会主義制度の自己改善・自己発展を推し進めていかなければならない。

「中国の特色ある社会主義の堅持と発展をしっかりと中心に据えて

第十八回党大会の精神を学習・宣伝・貫徹しよう」

(二〇一二年十一月十七日)

二〇一二年十一月十九日付『人民日報』に掲載

社会主義こそが中国を救うことができ、改革開放こそが中国を発展させ、社会主義を発展させ、マルクス主義を発展させることができる。この重要な判断は、三十年以上にわたるわが国の改革と発展の過程を考え合わせると、より明確に理解できる。一九七〇年代末、「十年動乱（文化大革命）」後の中国は、経済が崩壊に瀕し、人民は食べるもの、着るものになさへこと欠いていた。こうした厳しい事態を前にして、鄧小平同志は「必ず」とこう指摘した。「いまなお、改革を断行しないなら、われわれの現代化と社会主義の事業はご破算になるにちがいない」。まさにずしりと響く言葉ではないか。

「広東省を視察した際の談話」

(二〇一二年十二月七～十一日)

もしも鄧小平同志がわが党を指導して改革開放という歴史的な政策決定を行っていなかったならば、わが国に今日のこの発展があるとは想像できない。言わば、改革開放はわが党の歴史における偉大な目覚めであり、まさにこの偉大な目覚めから、新たな時代の理論から実践にいたる偉大な創造が生まれてきた。中国の発展の実践が示しているように、あの時期に鄧小平同志がわが党を導いて改革開放政策を決定したことは賢明で正しかったのであり、鄧小平同志は中国の改革開放の総設計者、中国の特色ある社会主義の道の開拓者と呼ばれるにふさわしいのである。これからも、われわれはこの正しい道をしつかりと歩んでいかなければならない。これは、国を強くし、人民を豊かにする道である。われわれはしつかりと歩んでいくだけでなく、新たな措置を講じて新たな水準を達成していく必要がある。

「広東省を視察した際の談話」
二〇一二年十二月七～十一日

改革開放は、現代中国が発展・進歩するための活力の源であり、わが党と人民が大きな足取りで時代の前進の歩みに追い付くための重要な切り札であり、中国の特色ある社会主義を

堅持し発展させる上でどうしても通らなければならない道である。

「広東省を視察した際の談話」

（二〇一二年十二月七～十一日）

改革開放なくして現代中国の発展と進歩はない。改革開放は、中国を発展させ、社会主義を發展させ、マルクス主義を發展させる強大な原動力である。現在、さらなる發展を目指すわが国が直面している一連の際立った矛盾と課題を解決するには、改革開放を深化させなければならぬ。改革開放は、現代中国の運命を決める肝心な一手であり、「二つの百周年」の奮闘目標（中国共産党創立百周年までに小康「ややゆとりのある」社会を全面的に築き上げ、新中国成立百周年までに富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げるという目標）の達成と中華民族の偉大な復興の実現を決定づける肝心な一手でもある。鄧小平同志は一九八〇年代にこう言ったことがある。「改革の意義は、次の十年と二十一世紀の前半五十年のために持続的発展の立派な基礎を打ち固めることにある。改革がなければ、今後の持続的発展もあり得ない。したがって、改革は三年や五年だけを見るのではなく、二十年見てみるべきだし、二十一世紀の前半五十年を見てみるべきである。このことはあくまでも

やり続けていかなければならない」。鄧小平同志は遠い将来まで展望して深く考えていたのである。これは、改革開放は長期にわたる入り組んだ至難の事業なので幾世代にもわたって引き継いでいかなければならないということ、わが党が早くから見抜いていたことを示している。

「第十八期中央政治局第二回グループ学習会における談話」

（二〇一二年十二月三十一日）

中国の特色ある社会主義は時代とともに前進する事業である。この意味で言えば、改革開放には進行形あるのみで、これで終わりということはない。改革開放がなければ、中国の今日はなく、中国の明日もない。今や改革開放の推進を支える以前よりもしつかりした土台があるが、改革開放は深まれば深まるほど、発展の過程における問題と発展の後の問題、一般的な矛盾と深層の矛盾、未完成の任務と新たな任務がどんどん折り重なり、複雑に錯綜する。改革開放における矛盾は改革開放という方法でしか解決できないのである。

「第十八期中央政治局第二回グループ学習会における談話」

（二〇一二年十二月三十一日）

改革開放はわが党が新たな歴史的条件下で人民を率いて進めている新たな偉大な革命である。この偉大な革命は、党の第十一期中央委員会第三回総会（以下、十一期三中総と略）から今日まで、三十五年にわたる驚くべき過程を歩んできた。事実が立証しているように、改革開放は、現代中国が発展・進歩するための活力の源であり、党と人民の事業が大きな足取りで時代に追い付くための重要な切り札であり、大勢と人心の赴くところである。足踏みや後戻りには活路はないのである。

武漢で一部の省・直轄市の責任者との座談会を主宰した際の談話

（二〇一三年七月二十三日）

二〇一三年七月二十五日付『人民日報』に掲載

中国共産党第十八回全国代表大会（以下、第十八回党大会と略）が描き出した小康社会の全面的完成、社会主義現代化の推進加速、中華民族の偉大な復興の実現という壮大な青写真を現実化するには、改革の全面的深化が必要である。中国の特色ある社会主義を堅持し発展させ、中国の特色ある社会主義制度の自己改善・自己発展を絶えず推し進め、社会的生産力をさらに解放し発展させ、社会全体の創造的活力を引き続き十分に解放していくにも、改

革の全面的深化が必要である。そして、わが国の発展が直面している一連の際立った矛盾と問題を解決し、経済・社会の持続的で健全な発展を実現し、人民の生活を絶えず改善していくにも、改革の全面的深化が必要である。

中共中央招集の党外人士座談会における談話

(二〇一三年九月十七日)

二〇一三年十一月十四日付『人民日報』に掲載

六十数年前、わが党は人民を指導して長期にわたる壮絶な苦難の闘争をやり抜き、新中国を建国した。三十数年前、わが党は人民を指導して改革開放を始めた。この二つの大事業は、中華民族の偉大な復興の実現に向かう歴史の歩みを大きく加速させた。

「全国総工会の新指導陣との座談会における談話」

(二〇一三年十月二十三日)

党と国家の活動の中心を経済建設に移して改革開放を實行するという歴史的的政策決定を党の十一期三中総が打ち出してからすでに三十五年になる。中国人民の姿、社会主義中国の姿、中国共産党の姿はこのように大きく変わり、わが国は国際社会において大きな影響力のある重要な地位を勝ち取った。これができたのは、改革開放をたゆまず推し進めてきたからにはかならない。

「『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する

中共中央の決定』についての説明」

(二〇一三年十一月九日)

二〇一三年十一月十六日付『人民日報』に掲載

現在、国内外とも環境がきわめて広く深く変わってきており、わが国の発展は一連の際立った矛盾と試練に直面し、行く手にはなおも少なからぬ困難と問題が横たわっている。例えば、◇発展における不均衡・不調和・持続不可能という問題が依然として際立っている、◇科学技術革新の能力が弱い、◇産業構造が不合理である、◇発展パターンが依然として粗放型である、◇都市・農村間および地域間の発展の格差と住民の所得分配の格差が依然としてかな

り大きい、◇社会的矛盾が明らかに増えている、◇教育、雇用、社会保障、医療・衛生、住宅、生態環境、食品・医薬品安全、労働安全、社会治安、法執行・司法などの面で大衆の切実な利益にかかわる問題がかなり多い、◇一部の人々が生活に困っている、◇形式主義・官僚主義・享楽主義・贅沢浪費の風潮の問題が際立っている、◇消極腐敗現象が発生しやすい分野や多発している分野がある、◇反腐敗闘争の情勢が依然として厳しい、などの問題がある。これらの問題を解決する力ぎは、改革の深化にある。

『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する

中共中央の決定』についての説明」

(二〇一三年十一月九日)

二〇一三年十一月十六日付『人民日報』に掲載

改革開放以来の各期の三中総は、毎回改革の深化について検討・討議し、毎回重要なシグナル——つまり、わが党は改革開放の旗印を揺るぐことなく高く掲げ、党の十一期三中総以来の理論と路線・方針・政策を揺るぐことなく堅持していくというシグナル——を発してき

た。これはつまるところ、新たな歴史的条件下でどんな旗印を掲げ、どんな道を歩むのかという問いに答えるためであった。

『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する

中共中央の決定』についての説明

(二〇一三年十一月九日)

二〇一三年十一月十六日付『人民日報』に掲載

党の十八期三中総が改革の全面的深化を主要議題にしたことは、わが党が鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を常に導きとして、新たな情勢の下で党の基本路線・基本綱領・基本的経験・基本的要請を揺るぐことなく貫徹し、改革開放の大きな旗印を揺るぐことなく高く掲げていくという重要な宣言、重要な姿勢である。

『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する

中共中央の決定』についての説明

(二〇一三年十一月九日)

二〇一三年十一月十六日付『人民日報』に掲載

われわれ中国共産党員が革命・建設・改革に取り組んできたのは、いつでも中国の現実的な問題を解決するためであった。言わば改革は、問題があるから生まれるのであり、しかも問題を絶えず解決していく中で深まるのである。

『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する

中共中央の決定』についての説明」

(二〇一三年十一月九日)

二〇一三年十一月十六日付『人民日報』に掲載

この三十五年、われわれは改革という方法で党と国家の事業の発展における一連の問題を解決してきた。だが一方で、世界を認識し改造する過程においては、一つ問題が解決すると、また新たな問題が出てくるもので、制度に絶え間ない改善を要する。それゆえ、改革は一足飛びにいくものではないし、一度の苦勞で済むものでもない。

『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する

中共中央の決定』についての説明」

(二〇一三年十一月九日)

二〇一三年十一月十六日付『人民日報』に掲載

改革開放は、わが党が新たな時代的條件の下で人民を率いて進めている新たな偉大な革命であり、現代中国の最も鮮明な特色であり、わが党の最も鮮明な旗印でもある。この三十五年、わが党は何に依拠して民心を奮い立たせ、思想を統一し、力を結集してきたのか。何に依拠して全人民の創造的な精神・活力を引き出してきたのか。何に依拠してわが国経済・社会の急速な発展を実現し、資本主義との競争で比較優位を勝ち取ってきたのか。それは改革開放にほかならない。

『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する

中共中央の決定』についての説明」

(二〇一三年十一月九日)

二〇一三年十一月十六日付『人民日報』に掲載

現在、改革開放については、党内外からも国内外からも大きな関心が注がれ、全党の各級と社会の各方面からも強い期待が寄せられている。改革開放は新たな重要な時期に差しかかっている。われわれは改革開放においていささかも揺らいではならず、改革開放の旗印を引

き続き高々と掲げ、中国の特色ある社会主義の道という正しい方向をしつかりと堅持していかなければならない。

『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する

中共中央の決定』についての説明」

(二〇一三年十一月九日)

二〇一三年十一月十六日付『人民日報』に掲載

改革開放は党が新たな時代的条件的条件の下で人民を率いて進めている新たな偉大な革命である。党の十一期三中総開催以来の三十五年にわたる実践が立証しているように、改革開放は、党と人民の事業が大きな足取りで時代に追いつくための重要な切り札であり、党と国家が生気と活力を維持する上での力ギであり、現代中国の最も鮮明な特色であり、現代の中国共産党員の最も鮮明な特性でもある。

「中国共産党十八期三中総第二回全体会議における談話」

(二〇一三年十一月十二日)

改革の全面的深化は、党と人民の事業の前途・運命にかかわり、党の政権基盤と政権党としての地位にかかわる。社会主義現代化の全過程において、われわれは絶えず改革開放の旗印を高く掲げ続けていかなければならず、いささかも揺らいではならない。

「中国共産党十八期三中総第二回全体会議における談話」

(二〇一三年十一月十二日)

改革開放以来の道のりを振りかえると、重要な改革が行われる度に党と国家の発展には新たな活力が注ぎ込まれ、事業の前進には強大な原動力が加えられてきた。党と人民の事業は、まさに絶え間ない改革の深化の中で波状的に前へと推し進められてきたのであり、まさに改革が試行から普及へ、局所から全局へと進んでいく中で絶えず発展してきたのである。改革開放がなかったならば、われわれは今日のこうした素晴らしい状況を迎えられていなかったはずである。

「中国共産党十八期三中総第二回全体会議における談話」

(二〇一三年十一月十二日)

三十五年にわたる改革開放の最も主要な成果は、中国の特色ある社会主義を創出し発展させ、社会主義現代化建設に強大な原動力と力強い保障を与えたことである。改革は、一つの国家、一つの民族が存続し発展していくための道である。未来に向かつてなすべきことは、発展の過程で直面する難題を解決し、各方面からのリスク・課題を解消し、経済・社会の持続的で健全な発展を推し進めることである。改革開放の深化以外に道はないのである。

「中国共産党十八期三中総第二回全体会議における談話」

(二〇一三年十一月十二日)

世界を見渡すと、変革が大勢と人心の赴くところ、滔々たる時代の潮流となっており、この流れに従うものは成功し、逆らうものは失敗している。われわれが進めているこうした世界でもまれに見る前人未踏の偉大な事業を指導する上で最もいけないのは、従来の考え方ややり方に満足・固執して進歩を求めないことである。われわれは、改革と発展が収めた成果や勝ち得た称賛を理由にいい気になつてはならない。先人の功績の上にあぐらをかくなどなおさらである。

「中国共産党十八期三中総第二回全体会議における談話」

(二〇一三年十一月十二日)